



EXTREME RYOBI

BID-10XR

充電式インパクトドライバー

価格7万1000円

リョービが満を持して今春リリースしたインパクトドライバーのフラッグシップモデル。ゼネラルモーター社のチーフデザイナーやボルシェ社のシニアデザイナーなどを務めた工業デザイナーの奥山清行氏が代表を務めるKEN OKUYAMA DESIGNとコラボレーションし、電動工具の枠を超えた新たなデザインを実現。使う、持つ、見るという様々な面から電動工具のEXTREME (究極) を提案する。



フラッグシップモデルのBID-10XRは、パールホワイト、ゴールドメタリック、パラオグリーンメタリックの3色を用意。

# XTREME RYOBI

エクストリーム リョービ  
 BID-10XR 充電式インパクトドライバー  
 リョービ史上最高位モデルが登場!!

## 感覚的な良さを追求

既存のインパクトドライバーには、どんな要素が欠けているのだろうか。リョービが導き出した答えは、感覚的な良さ。だった。  
 「究極」を意味するモデル名を冠した「BID-10XR」を手にとると、その曖昧で抽象的なテーマを見事なまでに具現化していることが分かる。電動工具を選ぶ際に使い手が重視す

これまでの電動工具の枠を超えた新たな一台がEXTREME (究極) という形で実現!

るのは操作性だが、BID-10XRは親指を自然に動かせるポジションに独自のサイドボタンを配置。グリップを握った瞬間に、どこをどのように操作すればいいの直感的に分かる設計となっている。  
 ネジ締め作業を行う時も、感覚的な良さを実感する。意識をしなくても、効率的に力が加わる方向にビットを構えることができるのだ。それを実現しているのが、ビットを中心

## BID-10XRのココがXTREME!

### 利便性



ビット周りの影ができない位置に3つの高輝度LEDライトを内蔵しているので、ビットの先端を明るく照らすことができる。付属の専用キャリングケースは、片手で素早く開閉できるワンパッカルタイプ。



専用キャリングケースの小物入れケースを外すと、充電器を入れたまま充電することができる。大容量電池は47分で充電が完了する。

### 操作性



独自の小型ブラシレスモーターの採用により、狭いスペースでの作業効率が向上する18Vクラス最短の106mmのショートボディを実現。親指でストレスなく操作できるポジションにサイドボタンを配置しているので、スムーズにモード切換えを行うことができる。モードは幅広いネジ締め作業に適応する5パターン。



薬指が当たる中心部分に重心点を置いた設計なので、上向き、横向き、下向きなど、様々な方向にバランス良く構えることができる。ビットを中心にしたシンメトリーな形状としているので、視覚的な迷いが生じることもない。最適なポジションを意識することなく握れ、効率良くネジ締め作業を行うことができる。

### 高性能



トルクはスピーディなネジ締めを実現するクラス最強の180N・m。ブラシ付モーターより機械的損失がない新開発のブラシレスモーターを採用し、18Vクラス最強の締付トルクを実現した。高効率なモーターを採用しているため、1充電あたりの作業量が約2倍にまで向上している。しかも使用している電池は大容量の6Ahだ。



### 安心感

スーパーゲルシートとソフトグリップの2層構造としたグリップ部がネジ締め時に発生する振動や衝撃を吸収し、手にかかる負担を軽減してくれる。振動はリョービの従来モデルに比べ35%軽減。手にかかる負担が軽くなった分、安心感が得られ、パフォーマンスが向上する。高い防塵、防滴性を表すIP56規格に適合している点も嬉しい。

にしたシンメトリーな形状だ。チャック部分をビットから左右対称に広がる形状としているため、錯覚や迷いが生じず、握るポジションと力を加える方向が視覚的に感じられるというわけだ。感覚で分かる工夫も施されている。指、拇指球筋、小指球筋など、力や感覚が伝わりやすい部分に柔らかい素材を配置しているため、最適で効率的な握り方に無理なくアシストされるのだ。  
 こうした適材適所に配置された柔らかな素材は、使い手のパフォーマンスの向上にも貢献する。職人の親指の付け根はタコが絶えないほどの振動に晒されるため、BID-10XRはグリップ部にスーパーゲルシートとソフトグリップを採用。この二層構造で、手にかかる負担を軽減する。手をガードしてくれる安心感も、握った瞬間に感覚的な良さとして覚えるはずだ。それら数々の仕掛けをプロデュースしたのは、エンツォ・フェラーリをはじめとするプレミアムカーや鉄道などのデザインを手掛けてきた工業デザイナーの奥山清行氏が代表を務めるKEN OKUYAMA DESIGN。「使い手のパフォーマンスを上げてくれる高度な技術に寄り添うデザイン」をコンセプトに、感覚的に良いと感じられる品質と質感を追求したという。その結果生まれた機能美は、ただそこにあってだけで、誇りと高揚感を与えてくれることだろう。



パ ワ ー ツ ー ル

# 電動工具RYOBI



## CONTENTS

2 はじめに

4 リョービのフラッグシップモデルが新登場  
**XTREME RYOBI** 充電式インパクトドライバー  
EXTRA STRIKE RYOBI BID-10XR  
Special Interview  
「直感を最高のパフォーマンスで引き出すXRの力」  
工業デザイナー・**奥山 清行** インタビューア/ジョー スズキ  
Ken Okuyama

10 作業服メーカー パートル × リョービ共同開発  
業界に新風を巻き起こすファン付きワークウェア  
**エアークラフト**

14 【総力特集】  
パワーツール愛用者18人を通じて見えてくるリョービの力  
**RYOBI LOVERS**

LOVERS 1	タレント・ヒロミ × 電子芝刈機、バリカン	16
LOVERS 2	大工 × 電子丸ノコ	20
LOVERS 3	クルマ磨き職人 × ポリッシャー	22
LOVERS 4	家具職人 × サンダー、トリマー	26
LOVERS 5	木工教室講師 × パワーツール	28
LOVERS 6	橋梁塗装職人 × パワーミキサー	30
LOVERS 7	リフォーム建築職人 × 小型レシプロソー	34
LOVERS 8	立花食堂 × 18Vシリーズ	36
LOVERS 9	福山市立動物園 × 高圧洗浄機、耕うん機、刈払機	38
LOVERS 10	デニム加工職人 × 刃研ぎグラインダー	42
LOVERS 11	ログビルダー × チェンソー	44

**リョービの銘機**

電子丸ノコ	24
小型レシプロソー	32
電子芝刈機	40
ブロワバキューム	46

48 庭仕事ならリョービのガーデンツールにおまかせ!

50 広島・府中の本社は技術力の塊だった  
「リョービ」というモノづくり  
開発・製造・販売の視点からリョービのモノづくりを探る

66 世界で活躍するリョービ

68 読者プレゼント

裏表紙

1 【特集】  
リョービのエントリーモデル「マイシリーズ」でつくる!  
人気DIYプロガー・KumeMariさんの  
**暮らしのDIY**

DIY 01	コーヒーテーブル	4
DIY 02	本棚	6
DIY 03	工具収納棚	8
DIY 04	木箱	10
DIY 05	ウェルカムボード	12

リョービのエントリーモデル「マイシリーズ」 14  
KumeMariさんに聞くDIYのQ&A 16  
KumeMariさんの自宅拝見 18

22 編集部オススメのDIYショップ



GARDENING TOOLS



タレント ヒロミちゃん × 電子芝刈機

充電式バリカン・充電式ポールバリカン  
（芝生のお手入れ）

芝刈機がずっと欲しかった

テレビ番組で披露するDIYの腕前はもはやプロ並み。自宅やガレージのリフォームは業者に頼まず自分で行う。「自分の家なら失敗しても誰も文句言わない」とはヒロミさんの弁。生粋のDIYラヴァー。電動工具は全て自前。工具箱にはリョービのパワーツールが溢れていた。「最初に買ったのは丸ノコカインパクトドライバだったかな」。

そんなリョービユーザーのヒロミさんがガーデニングツールもリョービを愛用している、との話を聞きお邪魔してみると……電子芝刈機、充電式バリカン、充電式ポールバリカンで芝刈りの最中だった。そこは広い芝生の庭があるヒロミさんの秘密基地。月に数回は訪れるそうだ。「ここに来たらまず芝刈りで一日が始まる。夏場は特にのび放題だから。まず最初に電子芝刈機LM2810で庭全体の芝を刈る。ハサミの様にシヤープに芝をカットするリール式の本体は、芝の高さが調節できる上、刃研ぎも行ってくれる。「すいすい切れ

る感覚がいい」とヒロミさん。芝を刈るだけでなく、成長を助ける「サッチング」機能は取材時に初めて知り早速

試してみる。芝生に堆積した古い葉などの刈りカスを取り除くことで、キレイな芝が生えるのだ。

電子芝刈機で刈り取った後は、充電式バリカンBB1800で隅々の残った芝を刈り取る。ヒロミさんが作った庭には、オシャレな水道や道具収納箱、レンガでつくったベンチテーブルなど、芝刈り時の「障害物」がいくつもある。収納箱もレンガも、バリカンの刃も傷つけない。「この黄色いガードがどちらも守ってくれるんだ。それが「キワ刈りガイド」だ。壁際の芝を刃に寄せて刈り取ることができる。「バリカンって名前も面白い。切れ味がいいから床屋の気分（笑）」と話しながら着々と作業を進める。腰を落とす姿勢に疲れたらポールを装着したポールバリカンBPB1800に切り替えられるのもお気に入りだ。

芝生のお手入れは面倒という人が多い中、ヒロミさんは楽しんでるようが見えた。それは道具が便利で使いやすいからか、それとも自分で作った庭に愛着があるからか。いずれにしてもヒロミさんの庭はいつもキレイに手入れされている。

方向転換も簡単！



ハンドルの高さ調節が簡単にでき、長時間の作業も疲れにくい。「軽くて運転もスムーズにできるね」

写真上／芝生に堆積した古い葉や根を「サッチング」(取り除く)する専用アクセサリで芝の成長を助けてくれる。写真下／レバーを切り替えるだけで簡単に刃研ぎができる。写真左／24ℓ大容量グラスキヤッチャで作業中の芝捨てがラクラク。



芝刈機ってこんなに静かだったっけ？

芝生がきれいになるって気持ちいい

Profile | ヒロミ  
1965年2月13日生まれ。タレント活動かたわらトレーニングジムを経営。趣味は多種にわたりトライアスロン、スカイダイビング、バイクなどいずれもプロ並みの腕前。自身の何気ない日々を綴ったブログが人気。  
<http://ameblo.jp/hiromi515/>



ヒロミさん愛用のパワーツールにはテレビ番組でお馴染み「八王子リホーム」シールが貼られる。工具箱には自身で買ったリョービのプロ用モデルがいっぱい。







親子鷹が絶大な信頼を寄せる

リョービのパワーツール

初めて使った約20年前から丸ノコはずっとリョービ

大工歴45年。広島県福山市を中心に住宅建築に携わってきた藤上憲治さんは、いまなお第一線で活躍を続けるベテラン大工だ。初めて現場に入ったのは中学校を卒業してすぐ。当初は道具に触らせてもらえず、掃除や後片付けばかりだったという。「先輩の職人がとにかく怖かった。掃除や後片付けに落ち度があったらすぐに怒号が飛んできましたね」そのためか、いまも仕事場は整理整頓が行き届いていないと落ち着かない。道具は「一所にまとめ、足元に不要な物を置くことはない。現場に入った後のルーティーンも

# 大工 × 電子丸ノコ

〈木材の切断〉



年間7棟前後の建築を手掛ける憲治さん。取材時は福山郊外の2×4住宅を担当。写真右の奥で話しているのは、リョービのパワーツールのデザイナー。改善点や要望など、現場の声を聞きに来ることもあるという。

**Profile | 藤上憲治**

中学校を卒業してから大工一筋の職人。愛車のハイエースも使いやすいように自分でカスタムしている。収納棚が取り付けられたハイエースの車内も、きれいに整理されている。右ページで紹介する憲治さんは次男。



完璧に確立されている。まず使わない端材を組み立てて台を作り、その上に丸ノコの刃が通る切り込みを入れる。丸ノコ専用の台を作るのだ。そこで使う丸ノコにも強いこだわりがある。愛用している4台の丸ノコはすべてリョービ。10年前に購入した自作丸ノコDW190もいまだに現役だ。

「リョービの丸ノコは、切る、持つ、置く……。どんな作業においてもバランスがいい。大工仲間も「丸ノコはリョービ」って言いますね」その背中を見て育った二人の息子さんも、建築関係の仕事就いている。そして、リョービのパワーツールに厚い信頼を寄せているという。

・ELECTRIC TOOLS



大工愛用のパワーツール

W-663ED  
電子丸ノコ  
価格3万8300円

行きつけの工具店で情報収集したり、大工仲間から借りて試したり、道具選びに関するアンテナを常に張っている憲治さん。一番使用する機会が多いリョービの丸ノコはトータルバランスに優れているので、ストレスなく作業することができるという。

丸ノコも他の電動工具も基本的にリョービ

子どもの頃からモノ作りが好きだった藤上慎司さんは、父親の後を追うように大工の世界に身を投じた。個人で仕事を請けるので同じ現場に入ることはないが、父親の憲治さんが使っている道具は気になるそうだ。それが影響したのか、いつしか同じ丸ノコを使っていた。その丸ノコはもちろんリョービだ。しかも、憲治さんとは同じ感想を持っている。

「やっぱり丸ノコはリョービです。例えば丸ノコは重心と刃がハンドル

に近いから、安定性が高くバランスがいいですね」

もっとも出番が多い丸ノコはW-663ED。丸ノコを使う時は神経を集中させるので、ストレスを感じない安心できるモノがいいという。

「電子制御、重心の安定感、ワンタッチで操作できる深さ調節、切粉が後に排出されるなどW-663EDの様々な点が気に入っています」

このW-663EDは5台目の丸ノコにあたり、他にも常に3台を使い分けている。そのすべてがリョービだ。慎司さんの大工人生をこれからも支えていくだろう。



定盤の裏のライドシートはシートのない定盤に比べ、滑り抵抗を60%低減。滑らかな動きが実現する上、切断時のキス防止効果も高い。パワフルな電子制御を備えているので、立ち上がりも滑らかで、墨線の合わせも簡単にできる。負荷をかけた際の回転数の落ち込みも抑えられる。



**Profile | 藤上慎司**

大工歴15年になる35歳。職人特有の気難しさはまったくなく、腕の良さに定評があるので、多方面から注文の依頼が入るといっても納得できる。右ページでご登場いただいた父親の憲治さんとは、道具の貸し借りをすることもあるという。



安心して使えるモノを使いたいから  
やっぱりパワーツールはリョービ

W-663EDなど、4台のリョービの丸ノコを受用。仕上げ材に使う材木の切断には表面を傷つけないように新しい丸ノコを使用するなど、4台を使い分けている。



建築現場とは思えないほどきれいな憲治さんの仕事場。切粉が飛散しないように、丸ノコに集じん機をつけて使うこともできる。



# パワーツールの絶対的エース 電子丸ノコ

インパクトドライバーなどと並んで電動工具の代表格とも言われる丸ノコ。その長い進化の歴史の中でもこの電子丸ノコの影響力は特大モノだ。

写真/藪崎 大(WPP) 文/吉野文敏



## 深切り丸ノコの先駆け

円形のノコ刃を動力で回転させ、木材を切断する丸ノコは、便利だが非常に大きな出力の動力を必要とした。ウォーム歯車を利用し、小さなモーターでも回せる「携帯できるサイズの丸ノコ」が登場したのは、1924年と伝えられている。

そこから100年にも及ぶ歳月を通して、丸ノコの進化の歴史が刻まれてきたことになる。近年でいえば、厚い木材や硬い木材の切断時に丸ノコの回転数が落ち、切断面がキレイにならないというケースを防ぐため、ノコ刃の回転数を電子制御する電子丸ノコが開発されたというのも、その進化の歴史のひとつに挙げられるかもしれない。

さて、2006年に発売されたリョービの電子丸ノコW570ED/W660EDの革新性は、このノコ刃回転数の電子制御というだけではない。「深切りタイプ」丸ノコの登場という意味での革新性である。現在、深切りタイプが電子丸ノコの主流となっていることを考え合わせると、そ

の先駆性、革新性の高さは特筆すべきものがある。この電子丸ノコは、ノコ刃を回転させるギヤ部分に中間ギヤを採用することにより、最終的にノコ刃を回転させるファイナルギヤの位置を下げ、従来よりも深い切り込みを可能にした。具体的には、ノコ刃外径147mmのW570EDでは従来のノコ刃外径165mmモデルと同じ最大切込み深さ57mm。ノコ刃外径165mmのW660EDでは従来のノコ刃外径190mmモデルと同じ最大切込み深さ66mmを実現。それはすなわち、ノコ刃径をワンサイズダウンさせても切込み深さを同じに保てることを、リョービが業界で初めて実現させたということである。

この電子丸ノコが銘機と呼ばれる理由は、独自のトータルバランスにもある。スライド面に対してモーターを35度傾斜させることで本体の重心とハンドルが近づき、大きく操作性を向上させたこの構造は特許も取得した。より使いやすさを求めて着実に進化を続けて、4代目となる現行モデルは、2014年のグッドデザイン賞を受賞している。



1 ファンタッチで素早く切り込みの深さを調節できる。2 切屑は作業の邪魔にならないように斜め後ろ方向に排出。3 木材の表面を傷つけず、滑りのいいスライドシートを採用。4 モーターを35度傾けてバランスを向上させ、操作性も向上。5 薄暗い場所でも墨線をしっかり確認できるLEDライト付き。





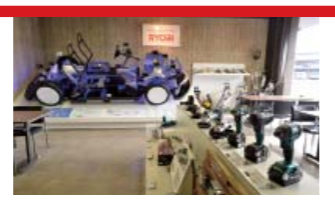
**COMPANY DATA**  
(2016年12月31日現在)

**社名**  
リョービ株式会社 RYOBI LIMITED

**創設年月日**  
1943年(昭和18年)12月16日

**社員数**  
リョービ 1,739人 / リョービグループ 8,926人


**主要商品**  
ダイカスト製品、  
パワーツール(電動工具、ガーデン機器等)、  
建築用品(ドアクローザ、ヒンジ、建築金物等)、  
印刷機器(オフセット印刷機、印刷周辺機器等)



**本社ロビーでは代表作がお出迎え**  
本社玄関を入ると、受付横に広がるロビーにはダイカストや電動工具などがズラリと並び、

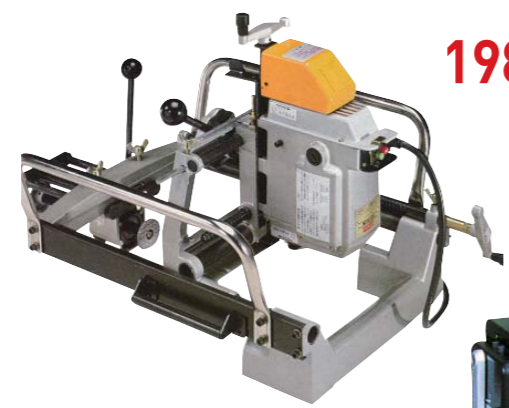
**2018年には創業75周年を迎える**

本社正門のすぐそばには、リョービ創業70周年を記念して製作されたモニュメントが建っており、その全面に全社員の思いが刻印されている。一人ひとり異なる手書き仕様で、さまざま筆跡とともにリョービ社員としての誇りがうかがえる。



## パワーツールの銘機を中心に！ リョービの年表 HISTORY OF POWER TOOLS

- 1943** 株式会社菱備製作所を設立。工場を広島県芦品郡岩谷村大字目崎(現広島県府中市目崎)に設け、翌年2月より航空機のダイカスト部品の製造を開始
- 1947** 株式会社安川電機製作所(現安川電機株式会社)、東洋工業株式会社(現マツダ株式会社)、三菱重工株式会社(長崎・広島)、三菱電機株式会社(福岡)など大手企業との取引を開始
- 1961** 国内最大(当時)1200tの鋳造機を設置 オフセット印刷機の製造を開始
- 1963** ドアクローザーの製造販売を開始
- 1968** 株式会社東和電器と業務提携。パワーツール事業がスタート。電動工具の製造を開始。
- 1973** 社名を「リョービ株式会社」に変更
- 1978** 電動工具の国内ブランド名「リョービ東和」を「リョービ」に変更
- 1979** 業界初の電子制御付きの変速ドリルを発売。他社に先駆けて電動工具のエレクトロニクス化に取り組む
- 1980** 片手で握れる縦型「ミニトリマー TR-30」発売
- 1981** 「カマアリホソ取機 HW-151」「大入れ加工機 DR-100」発売
- 1984** 「小型自動カンナ AP-10」発売
- 1986** 「ラジアルアームソー RA-200」発売
- 1987** 世界で初めてベンチトップ(卓上タイプ)ツールを導入。「卓上切断機 TS-200」発売
- 1988** リョービ東和株式会社を「リョービ販売株式会社」に社名変更
- 1990** ジャパンDIYショー'90で「マイドリルMD-10」「マイドリルMD-10V」がロングセラー賞受賞
- 1994** 中国に電動工具と建築用品の製造会社・良明(大連)機器有限公司(現利優比(大連)機器有限公司)を設立
- 2000** 「電子シングルアクションポリッシャー PE-2100」発売
- 2001** 業界最小の外径145mmの刃物を装着した「丸ノコ W-145D」発売
- 2006** 他社に先駆けて深切りタイプの丸ノコ「電子丸ノコ W-570ED/660ED」発売
- 2007** 「小型レシプロソー RJK-120」発売



**1981** 木材にホソ穴をあける「大入れ加工機 DR-100」を開発・発売。それまで手作業でしかできなかった複雑な形状のホソ穴あけを可能にして、作業現場で大いに威力を発揮し、ヒット商品となった。



**1984**

内装材加工用の自動カンナが100kg超の大型機械しかなかった時代に、約1/4ほどに軽量化した「小型自動カンナ AP-10」を発売。現在も「AP-10N」として受け継がれている。



**1986**

世界で初めて、ベンチトップ(卓上タイプ)の電動工具シリーズとして「ラジアルアームソー RA-200」を発売 1987年には同シリーズとして「卓上切断機 TS-200」を発売。

**2006**

深切りタイプの丸ノコ「電子丸ノコ W-570ED/W-660ED」を発売。現在、業界の主流となっている深切りタイプの丸ノコの先駆けとなる。現在も4代目モデルが高い評価を誇る。



**2007**

「小型レシプロソー RJK-120」発売。独自のリアモーター設計で、バランスが良く、操作性が高く、「手ノコ感覚」で使用できるレシプロソーとして、プロから高い支持を受けている。

2017年現在、電動工具、ガーデン機器、清掃機器の約772種類のパワーツールを展開中

**挑戦と開発のものづくり**

私たちの多くは「リョービ」という会社を、プロからDIY好きまで多くの人が使っている電動工具のメーカーとして捉えている。しかし、それはリョービという企業の一側面に過ぎない。創業は1943年(昭和18年)。ダイカスト製品の製造販売を業務としてスタートした。そのダイカストは現在もリョービの中核事業である。「ダイカスト」とは聞き慣れないことばだが、金型に溶かしたアルミを流し入れ精度の高いアルミ鋳物を短時間で製造する鋳造技術(製鋳)である。例えば、車のボンネットの下にある複雑な形状のトランスミッションケースやシンダーブロックなどもダイカスト。実は、リョービは国内外の自動車メーカーに300車種以上2500点に及ぶ部品を供給している世界トップクラスのダイカストメーカーなのである。つまり、業界では世界に名だたるトップ企業なのだが、その事実を私たちの多くは知らない。ダイカストは自動車以外にも家電やOA機器・産業機械・等々、日常生活に関わるさまざまな分野で使われてお

り、実は私たちもダイカストを通してのリョービユーザーなのである。リョービ本社の玄関ロビーには、自慢のダイカスト製品が展示されており、その精巧で緻密、繊細な仕上げには驚かされるばかりだ。創業者が故郷の古い醤油蔵を借りた工場からスタートしたという「菱備製作所」が、世界トップクラスのダイカストメーカー・リョービに至るまでに繰り返してきた挑戦と開発の成果がそこにある。そこで育まれた高レベルの技術を活かして、リョービは現在、ダイカストのほかに、電動工具などのパワーツール

ドアクローザに代表される建築用品。高性能多機能の印刷機器という4つの事業を展開している。パワーツール事業では、私たちになじみの深い電動工具の他、芝刈機やヘッジトリマーなどのガーデン機器、風でゴミを払うブロワーや高圧洗浄機などの清掃機器も製造販売している。パワーツール事業は、1968年にスタート。既に大きく市場を占めていた大手2社に挑むカタチでのスタートは、1台の電気カンナから。以降、小型花・卓上花・電子制御化など、特徴ある「業界初」を生み出しながら開発と挑戦を続け

ている(※右頁の年表参照)。現在、電動工具だけを見ても、締め付けや穴あけのドリル類、丸ノコや手持ちのレシプロソーなどのノコ類、研磨・研削のサンダ類、あるいはカンナ類など、そのカテゴリーは多岐にわたる。玄関ロビーには、ダイカスト製品と共にリョービのパワーツールも誇らしげに並んでいる。それは「リョービ」という名の「モノづくり」の伝統を受け継ぐ誇りであり、「挑戦」という名の「リョービのモノづくり」を継承していく誇りでもある。

中国山地の柔らかな稜線を背景に赤いRYOBIの文字が映える。広島県府中市、電動工具メーカー「リョービ」の本社は、電動工具だけではない「モノづくり」の総本山なのである。

写真/飯嶋大(W.P.P.) 文/吉野文雄

# 「リョービ」

広島県府中市の本社訪問！

## とと

そこは技術の塊だった

# モノづくり





2×4材を重ねてつくる  
切って留めるだけの手軽さ

# Coffee Table

【コーヒーテーブル】

**材料**

コンパネ

- ・コンクリート用型枠合板(コンパネ) 900×380mm ..... 1枚
- ・2×4材 900mm×89mm×38mm(厚み) ..... 10枚
- ・テーブルの脚 好みの長さ(今回はスチール製400mmを使用) ..... 4本
- ・アイアン塗料 ・アンティークワックス ・ステンシル型&塗料(またはスプレー)

**作り方**

- 1 2×4材とコンパネにアンティークワックスを、テーブルの脚にアイアン塗料を塗って乾かす
- 2 2×4材に木工用ボンドを塗って10本重ね、治具で固定。完全に硬化したら角をネジで留める
- 3 2の2×4材にコンパネを敷きネジで固定する
- 4 コンパネ側の四隅にテーブルの脚をネジで固定する
- 5 木材の角にサンダーをかけて風合いを出す

## 上手に作るコツ

**2×4材ってなに？**

アメリカの「2×4工法」に使われる木材のこと。建物を壁や床などの面で支える構造で、その面をつくりだす枠組みに用いられるのが「2×4材」。木口の厚さ2インチ、幅4インチが名前の由来。規格化されているためコストが安く、DIY用に加工しやすいのが特長。

存在感のあるスチール製の脚を使用。粘度の高いアイアン塗料をスチールの上から叩くように塗ると、表面がゴツゴツした味のあるアイアン感が出る。

**正しく使えば怖くない！丸ノコを安全に使うには？**

直線切りで正確さを誇る丸ノコだが、安全に使うコツは、クランプでしっかり板を固定し、ゆっくり真っすぐに切ること。その際、必要以上に本体を押しつけないよう注意。切断する延長線上に立たないこと。

**長さ・太さ違いのネジが複数あればベスト**

DIYでは長さ、厚さの異なる木材を組み合わせることも多いので、パーツを固定するネジも数種類の長さ、太さのタイプを用意しておくとう作業がスムーズに進む。

テーブルの表面になる10本の2×4材それぞれの角をしっかりとそろえて重ねる。接着に使う木工用ボンドも気持ち多めに。治具で固定しボンドが完全に硬化してからベースとなるコンパネにネジで固定する。

コンパネに2×4材をネジで固定する際は、四隅から中央へ向かっていく形で進めていく。脚の固定はまっすぐ立つように調整する。

テーブルの表面や角を仕上げるときは、電動式ヤスリ「サンダー」をフル活用。「サンダー」は「いちいち、いい仕事をしてくれる」と大評判。

ステンシル装飾をして完成。マスキングシタがら、筆でトントン叩くように塗っていくと、抜いた文字の表面がアンティーク調に仕上がる。



木の温かみにあふれたコーヒーテーブルは、リビングのなかでも優しさを感じさせるいい存在感。脚を黒にしたことで、空間にメリハリを与える効果も。